

28 年度 JKA 補助事業

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概 要
IEC/TC108（オーディオビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性）/HBSDT	アメリカ／サンサンディエゴ	2015 年 5 月 10 日から 13 日	US, カナダ, ドイツ, イギリス, ノルウエー, デンマーク, スウェーデン, 中国, 他 約 50 名	近藤 孝彦	IEC62368-1 Ed.3 作成に向けた文書（108/623/DC, 108/624/DC, 108/632/DC), IEC/TR62368-2 Ed.3 作成に向けた文書（108/633/DC), IEC62368-3 Ed.1 発行に向けた文書（108/639/CD), IEC62949 Ed.1 発行に向けた文書（108/625/CDV) のそれぞれの文書に対する各国コメントの審議を行った。結果として, IEC62368-1 ed.3 については CD を, IEC62368-3 Ed.1 については再度 CD を, IEC62949 Ed.1 については FDIS を, それぞれ発行することが決定した。その他として, IEC60065 及び IEC60950-1 の規格解釈の審議を行い, INF を発行することが決定した。また, CTL 並びに OSM の決定事項に関するレビューを行った。
IEC TC108（オーディオビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性）/HBSDT	サンディエゴ（米国）	5/10～5/13	約 50 人（日本から 8 人）	柴田 恵	1）IEC62368(AV 及び ICT 機器の安全) の第 3 版案の DC 文書（108/632/DC）に対する各国コメント計 188 件（内, 日本から 54 件）の審議を行った。日本コメントは, 空間距離の決定関するものなどそのままの形では採用されないものもあったが, 多くはコメントの趣旨は理解され, それを反映したものが, CD 文書として発行されることになった。 2）屋外で使用する機器に対する追加要求についての DC 文書（108/623/DC）に対する各国コメント計 86 件（内, 日本から 8 件）の審議を行った。日本から感電の危険の電圧限度値を厳しくする提案については, アドホックで継続審議されることになった。 3）電源と通信線間に使用する SPD ついての日本提案は, 各国コメントに対して, SPD の特性データなどを示しプレゼンを行ったが, 理解が得られず不採用となった。今後, 国内で対応を検討する。
IEC TC108（オーディオビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性）/HBSDT 国際会議	米国カリフォルニア州サン・ディエゴ Sony Electronics 事業所内会議室	2016 年 5 月 10 日～13 日	約 50 名（日本, 米国, 独, 英国, 中国, オーストラリア, 他）	佐藤幸一	今回の会議の主要目的は IEC 62368-1 Edition 2(発行済み)を改訂するための提案文書を審議して, 合意された内容を CD に組み入れることである。すでにいったん合意された提案内容を集約した DC 文書を, またそれ以外に新規に提出された部分的変更提案を審議した。また, IEC/TR 62368-2 の第 3 版原案に対する各国からの意見を審議した。さらに, Basic Safety Publication となる予定の IEC 62949 原案（ICT(情報通信・電子機器)以外の機器が ICT Network に接続する際の安全を確保するための規格案）を審議した。 これらの規格・規格案は情報通信・電子機器の安全性確保を目的としたものだが, 日本を含む各国の規制, 技術要件として世界で横断的に運用されるもので, 産業界に与える影響も多大である。日本からは多くの意見, 提案を出して規格の技術内容の適正さ, 現実運用性の維持, 及び国内産業界の要望の実現に貢献している。
ISO/TC 167(鋼構造及びアルミニウム構造)/WG3	英国 ロンドン市 BSI	2016 年 5 月 10 日～12 日	ノルウェー（TC167 幹事国）1 名, 米国（WG3 議長国）: 3 名, オーストラリア 1 名, カナダ 2 名, 中国 3 名, ドイツ 1 名, 日本 1 名, 英国 1 名,	杉山 誠（(株)安藤・間	ISO 10721-2 の改定案 CD17607 が, 2015 年 10 月 1 日期日の CD 投票の結果, 各国より合計 500 以上のコメントが提出されて不成立となり, 前回 WG3（11 月 3～5 日）からその修正作業が行われている。2016 年 2 月に WG3 事務局から各国コメントに対する未審議事項(300 余り)の取り扱い案が提示され, 今回の WG3 ではその審議が行われた。 今後は, DIS 投票の段階に移ることになり, 今回 WG3 における訂正事項を事務局と各 TG リーダーにて 7 月末までに取り纏め, DIS 投票用の改定案を 8 月中までに作成することとなった。DIS 投

			合計 8 か国, 13 名		票は 11 月から 2017 年 3 月か 4 月を期限とし, 次回 WG3 は 2017 年 6 月 13~15 日, カナダ (ト ロント, CWB) にて行う予定。
IEC/TC 86 (ファイバオプティ クス) /SC 86C/WG 2 (Fiber Optic Sensors)	リムリック(アイル ランド)	2016 年 5 月 30 日~31 日	17 名 (9 ケ国)	高橋 正雄 株式会社東芝 電力・社会システム技 術開発センター	<番号体系の改定採択> IEC61757-X-Y, X=測定対象 (歪 : 1, 温度:2), Y=測定技術 (FBG : 1, 分布測定 : 2) の改訂で採 択 <次回会合で NP 提案予定> 3 件 Temperature sensors based on fiber Bragg gratings (DE) Distributed fiber acoustic sensors (US) Distributed fiber strain Sensors(CH) <審議> IEC 61757-1:Generic specification の CD draft を作成 I (DE) <本年 2 月と 5 月にパブリッシュ> 2 件 IEC 61757-1-1: Strain Sensors based on fiber Bragg gratings IEC 61757-2-2: Distributed temperature sensing <日本からの提案> 1 件 光ファイバ電流センサの提案を行い, 日本の PL は合意され, 近々に NP 提案予定
ISO/TC22 (自動車) /SC38/WG 会議 ISO/TC22/SC38 Plenary 会 議	UNI (イタリア国 家規格協会) ロー マ/イタリア	2016 年 5 月 26 日 WG2 2016 年 5 月 27 日 Plenary	WG2:イタリ7(3 名), スイス(1 名), ドイツ(1 名), オーストリア(1 名), 中 国(1 名), 韓国(2 名), 日本(5 名) Plenary: イタリア(2 名), スイス(1 名), ドイツ(1 名), オーストリア(1 名), 韓国(1 名), 日本(6 名)	細井幸治(ヤマハ発動 機株式会社)	(1) 5 月 26 日(木) ISO TC22 SC38 WG2 会議 ① ISO/DIS 18243 (PL 中国, 二輪 LIB 評価試験, しかし, 実質的には日本が黒子で全部や ってる) 結果: IS 化/FDIS 投票 の判断を SC38 プレリ-会議に委ねる事とした。 ② ISO18246 (PL 日本, 充電時二輪車両安全) 結果: 直ちに改訂作業に入る。(PL 日本) ③ ISO4106 改正 (イタリア提案, HEV の最大出力計測法追加) 結果: 改訂作業実施是非判断は SC38 プレリ-会議に委ねる事とした。 ④ IEC との Mode4 協業 IEC/JPT61851-3 の WG2 の代表者 (Co-Convener) を高橋一樹か ら報告者に交替することが承認された。 (2) 5 月 27 日(金) ISO TC22 SC38 Plenary 会議 ① Resolution 308/2016 : WG1 の「二輪車燃料蒸発ガス試験方法 (SHED 試験方法)」の NP を開始することを合意(承認)した。 ② Resolution 309/2016 : WG2 の DIS18243 について, ファイナルドラフト(FDIS)作成し再度投票を 決定した。また, ISO 18246 については, 改訂作業を PWI として開始することを承認した。 ③ Resolution 310/2016 : WG3 については, 決定済みの機能安全 ISO26262 のサブパート 12 のサブパート 2 から 10 への に振り分け動議が浮上している。SC38 としてはアンフェアでア ブノーマルな決定と SC32 に断固抗議すると決議した。 ④ Resolution 311/2016 : コントロール(シンボル)について欧州(国連)規格に合わすべく元来の二 輪シンボル ISO9021 (MC) 6727 (Mopeds) を再編改訂する形で WG を復活申請することを決定。

					この WG の幹事国はイタリア，NWIP の PL は日本となる。 ⑤ Resolution 313/2016：エンジン車の最大出力計測法標準 ISO4106 をハイブリッド車への適応を可能にするよう改訂し，欧州(国連規格)の二輪騒音規制 R41 におけるハイブリッド車の規定について対応できるようにする件について，「やるやらないに至らない調査段階 PWI（Preliminary Work Item）にして専門化のリクルートに入る」という結論を得た。 ⑥ Resolution 314/2016：SC38 から SC37 へのリエイゾンオフィサーを高橋一樹から報告者に交替することが承認された。 ⑦ Resolution 315/2016：“ISO 11838:1997 Motorcycle and motorcycle-rider kinematics -- Vocabulary”について，日本の提案で改訂が合意された。 ⑧ Resolution 316/2016：次回会議は 2017 年 11 月 7thで実施する予定。 以上
I S O／T C 2 9（工具）／W G 3 7（回転工具のバランス）	ドイツ国フランクフルト市	2015 年 5 月 4 日～5 日	3 か国 13 名	堺 弘司（（一社）日本工作機器工業会	ISO/NP 16084 Balancing of rotating tools and tool systems に対するの日本コメントについて審議を行い，ほぼ採択されることとなったが，何点かは，原案作成者による修正案の作成となり，修正版を DIS として投票することを決定。
ISO/IEC JTC 1（情報技術）/SC28/WG3 国際会議	ポートランド（米国）HP Columbia Tech Center	2016/06/09 ～ 2016/06/16	13 名(米国 6 名，中国 2 名，日本 5 名)	下村明彦（WG3J 主査，キヤノン）	①ISO/IEC 17991(MFD Scanning 生産性)は，スコープに single function scanner を追加する改定の NWIP をすることが決まった。②ISO/IEC 29183(単票片面複写生産性)，ISO/IEC 24734(プリンター生産性)，ISO/IEC 24735(複写生産性)等の生産性 ISO 間で整合性を取るための改定を行うため，CD 案を提出することが決まった。日本は上記全ての案件に関し改定内容を積極的に提案した。
ISO/IEC JTC 1(情報技術)/SC 28 第 27 回 Plenary&Wgs ポートランド国際会議	ポートランド（米国） Hewlett-Packard Columbia Tech Center	6/9～6/16	33 名（英 1，米 13，中 5，韓 1，蘭 1，日本 12）	森 本 悦 朗 （SC28/WG5J 主査，リコー）	SC28/WG5 の主要議題の一つである，ISO/IEC 21565「Viewing environment guideline for office equipment」に関する審議が行われ，Working Draft 改定案が合意に至った。SC28/WG5 のもう一つの議題である，NWI-1,2,5「Automated office colour management」については，IoT 関連プロジェクトであるため，今後まずは SC28 内全体を対象に Survey が実施されることになった。 ISO/IEC 247**-2 において，日本より表面磨耗試験の新しい提案をおこなった。高い再現性が期待され，各国より関心が示され今後も継続し情報提供していく必要がある。各国からも活発な試験提案がなされており，適宜内容を精査し日本としての対応を検討していく必要がある。
IEC SC8A（再生可能エネルギー発電の系統連系） - Grid	中華人民共和国北京市	2016 年 7 月 6～9 日	中国，スペイン，オーストラリア，日本からそれぞれの	七原俊也（東京工業大学）	IEC TC8（電力システム），SC 8A（再生可能エネルギーの系統連系）では，WG 1「再生可能エネルギーの系統連系に関する用語と定義」および WG 2「再生可能エネルギーの出力予測」を新設（コ

Integration of Renewable Energy Generation WG 1,WG 2 Joint Kick-off Meeting	河北省張北県（設備見学）		WGに17名程度		ンピーナ-：中国）することとなり，合同のキックオフ・ミーティングが開催された。WG1では関連の用語定義を目的とした技術仕様を，WG2では再生可能エネルギーの出力予測のガイドラインとすべき予測の技術仕様やモデル概要についてまとめた技術報告を作成することを目指している。今回は，事務局が作成した目次に関する Working Draft をもとに，両 WG で作成する文書の内容等について意見交換を行った。報告書の内容についてはまだ流動的な部分も多いが，今年中に開催予定の次回 WG までに参加各国が協力して文書のたたき台を作成し，その内容について議論を深めていく予定である。
IEC TC8(電力供給に関するシステムアспект)/SC8A Grid Integration of Renewable Energy Generation WG 1 Terms and difinitions of grid integration of renewable energy generation(IEC 62934 Ed1.0) WG 2 Renewable energy power prediction Joint Kick-off Meeting	中華人民共和国北京市	2016年7月6日 WG1 7日 WG2	中国，スペイン，オーストラリア，日本からそれぞれのWGに17名程度	東京電力HD(株)経営技術戦略研究所知的財産室 国際標準化推進G 原 宗成（東京電力HD）	IEC TC8（電力システム），SC 8A（再生可能エネルギーの系統連系）では，WG1「再生可能エネルギーの系統連系に関する用語と定義」およびWG2「再生可能エネルギーの出力予測」を立ち上げ，合同のキックオフ・ミーティングが開催された。 WG1では関連の用語定義を目的とした規格を，WG2では再生可能エネルギーの出力予測のガイドライン作成のための技術報告を作成することを目的としている。 今回は，事務局が作成した Working Draft をもとに，両 WG で作成する文書の項目（目次）について意見交換を行った。 WG1は10月にミーティングをドイツで開催することが確認され,各国の作業分担を決め,9月までに作業原案（WD）を作成し,その内容について審議する予定である。 WG2は次回 meeting の開催については未定。
IEC/TC91(電子実装技術)WG2, WG3, WG6,WG12, AG16 会議	米国ジョージア州アトランタ市ジョージア工科大	2016年6月13日(月)～17日(金)	日，独，米，英，韓，中，印 40名	岡本 正英 (株)日立製作所 研究開発グループ IEC TC 91(電子実装技術)国際幹事	・IEC 61191-3 Ed. 3 の議論。スルーホールはんだ上がりレベルの基準：最新の米国 IPC 規格 Rev. Fではなく，1つ前の Rev. E の基準が適切であることを日本から主張し，これが受け入れられた。 ・IEC 61190-1-3 Ed. 3 の議論。はんだの定義の記述の変更に関しては，技術的に重大な変更であるため，FDIS 段階まで来ている本 Ed.では検討せず，次の Ed.で検討することになった。 ・IEC 62090 Ed. 2 の議論：容器包装ラベルに表示するデータ項目に，感湿性レベルあるいはラベルには表記しきれない製品情報を取得するための URL 情報表記用の新たな DI（データ識別子）を追加。規格の内容に大きく影響するインターネット経由での情報提供については，日本と欧州の間で意見が対立していたが，日本が提案した，「セキュリティに関する注意喚起」及び「顧客側からの一方的な要求ではなく，データの提供方法，内容は，サプライヤとの相互合意に基づくべき」という記述を明記することで合意が得られた。
ISO/IEC JTC 1（情報技術）/SC17/WG1 メンローパーク国際会議	メンローパーク（アメリカ）Exponent 社	6/27～6/30	22名（議長，英2，米8，仏2，独4，ニュージーランド1，日本3，ICMA1）	辰 甚太郎（大日本印刷株式会社）	主要議題の一つとして ISO/IEC 24789 シリーズの「カード耐久性」についての審議がなされた。ISO/IEC 24789-1 において，前回会議で提示された変更案について日本よりアプリケーションプロファイルの算出を実施した結果の報告を行った。日本がこれまで先んじて試験を実施し多大な貢献をしてきた分野であり，今後も日本に有利な規格となるよう対応を検討していく必要がある。 ISO/IEC 24789-2 において，ドイツより経時的な表面摩耗を再現するための振動試験の紹介があった。日本がこれまで先んじて試験を提案し多大な貢献をしてきた分野であり，今後も日本としての対応を検討していく必要がある。

					また、 本会議への派遣は公益財団法人 J K A と日本規格協会の補助を受けて行われた。
IEC/TC91（電子実装技術）ア トランタ会議	米国 アトランタ （会議会場：ジョ ージア工科大学	6 月 15 日～6 月 16 日	米国、ドイツ、韓国、日本 よ り コンベナー及びエキスパート 計 8 名	高橋 満 一般社団法人 電子情 報通信学会 規 格 調 査 会 TC91/WG14 主査	日本が主導しているデザインオートメーション標準の重要事案における課題解決と加速推進を図る ため IEC/TC91 アトランタ会議の関連 WG に出席した。 ①TC91/WG14 会議ではコンベナーとして会議を進行し異種の電子部品ライブラリの統合化技法に ついて Ontological specification の NP 素案について検討し TS 化を進めることを確認した。 ②TC91/WG13 会議では本年 5 月の投票で賛成多数で承認された IEC/TR 63051 Ed.1.0 (HDLMath)のネガティブコメントに対し数学アルゴリズム記述言語標準の重要性と有用性を説明 し米国等の理解を得た。 ③TC91/WG11 会議では IPC-2581 と緊密に関係する IEC 61182 シリーズの棚卸が進められデータ 形式に関する国際規格の位置付けと今後の展開方向が明確化された。
IEC TC91（電子実装技術） WG13 会議, WG11 会議	アトランタ市	2016 年 6 月 15 日～6 月 16 日	5 名(WG13), 9 名(WG11) 日 本, 米国, 英国, 独国, 韓国, 台湾, 印度(7 カ国)	小島 智 （コジマイーデザイン オフィス）	(1)WG13（設計記述言語） - 日本提案 IEC 63055 Ed.1.0 (IEEE2401 LPB-2015)が 5 月投票で承認, 8 月発行予定 - 日本提案 IEC 63051 Ed.1.0 (HDLMath)が 5 月投票で承認, 8 月発行予定 - IEC 62014-1 Ed.1.0 (IBIS 3.2-1993)の取下げが 2 月投票で承認 (2)WG11（データフォーマット） - WG6 共同日本提案 IEC 62878-2-5 Ed.1.0 (部品内蔵基板データフォーマット)NP が 3 月投票で承 認 - IEC 61182-1 Ed.1.0 (IPC-D-305), IEC 61182-7 Ed.1.0 (Test Information)と IEC 61182-10 (Data Hierarchy) の取下げが 2 月投票で承認
IEC TC91（電子実装技術） WG13 会議	アトランタ市	2016 年 6 月 15 日～6 月 15 日	5 名(WG13) 日本, 米国	神戸尚志（近畿大学理 工学部教授）	IEC/WG13（設計記述言語）国際会議に出席し、日本提案である IEC 63051 Ed.1.0 (HDLMath)につ いて議論した。本規格は 5 月投票で、すでに 9 カ国が投票し 8 カ国が賛成し承認されている。 米国のみが反対投票した。今後の良好な関係を構築するために、反対コメントに対して議論した。 本規格が数学アルゴリズム記述言語の必要条件や在るべき方向を示す技術報告として重要であり、 今後、各国が協力して普及に努めることで意見の一致をみた。IEC/TR 63051 Ed.1.0 として 8 月に 発行される。
ISO TC 281（ファインバブル 技術）会議, WG 1 会議	オーストラリア シドニー市	平成 28 年 7 月 26 日, 27 日	英国, オーストラリア, 韓国, シンガポール, 日本, 米国, 中国, ロシア	ISO/TC 281 WG 1 Expert 田中 充	ファインバブル技術に関する一般原則規格案の審議が行われた。 ファインバブルの分類の内、サイズインデックス及び個数濃度インデックスの区分による人為的な 分類については不要との意見が出されたが、これを規定しなければ現状の信頼性が不十分な測定結 果を利用することが不可能であるとの理由で記載が認められた。 用語規格案の内、サイズインデックス及び個数濃度インデックスは合意に基づく手順にしたがっ て測定した結果として定義されているが、基づくべき手順が定められない現状では特に応用規格開

					発に進められない。そこで、日本及び英国からU F B水の測定結果から、発生前の水（ブランク水）の測定結果を差し引くことを個数濃度インデックスの為の手順とすることが示された。 日本提案のファインバブルの使用と計測に関する用語集は DIS 化で同意された。 また同じく日本提案のファインバブルの使用と計測に関する一般原則は CD 登録されることが決まった。
ISO TC 281(ファインバブル技術) 会議, WG 2 会議	オーストラリア シドニー市	平成 28 年 7 月 26 日, 27 日	英国, オーストラリア, 韓国, シンガポール, 日本, 米国, 中国, ロシア	ISO/TC 281 WG 2 Expert 島岡 治夫	- 「サンプリングと前処理」 同規格については、希釈に用いる液体（水）について、「Diluent」を「Diluent water」に修正する提案があり了承した。これ以外に特に修正提案はなく、次回ロンドン会議以降に C D からスタートできるようにするとの内諾をから次期議長から得た。 - 「輸送と保存」 規格案の内容についての議論の前提として、2016 年 4 月から 6 月に実施したウルトラファインバブルの「輸送と保存」に関する国際比較試験の結果と経験を踏まえ、実施手順を改定し、さらに参加国を追加し再度の国際比較試験を実施することになった - 「マイクロバブルのサイズ測定」（今回、初めて提案） 規格の必要性と提案内容をプレゼンを実施し、PWI にすることができた。
ISO TC 281(ファインバブル技術) 会議, WG 3 会議	オーストラリア シドニー市	平成 28 年 7 月 26 日, 27 日	英国, オーストラリア, 韓国, シンガポール, 日本, 米国, 中国, ロシア	ISO/TC 281 WG 3 エキスパート	WG3 では、新たに TC 281 に参加したオーストラリと米国のエキスパートからも意見が出され、現在審議中のいくつかの規格案に興味を示した。米国のエキスパートは ISO や ASTM 等を用いて、独自に製品の洗浄評価をしているとのこと。そのため、WG3 で審議中の規格案に続き、米国から洗浄評価に関する規格案の提案が期待される。またオーストラリアと米国のエキスパートらの協力により、規格作成作業のさらなる進捗が期待される。 WG3 で審議中の規格案について、各案担当のエキスパートより内容の概要説明や各国からのコメントに対する規格案の修正についての説明等が行われた。これらの審議を通して、PWI 提案中の規格案 1 件について NP 提案を行なうことが承認された。
I S O / T C 142(空気及びその他のガスの清浄装置)国際会議出席	米国ジョージア州 アトランタ市 A S H R A E 本部	2016 年 9 月 19 日～22 日	全体会議出席者：50 名 議長：イタリア(UNI) P-メンバー：米国 (ANSI), 英国(BSI), ドイツ(DIN), オランダ(NEN), フランス (AFNOR), スウェーデン (SIS), ベルギー(NBN), カナダ(SCC), 韓国(KATS), 中国 (SAC), 日本(JISC)	大谷吉生（金沢大学） 金岡千嘉男（元金沢高専）、大垣豊(元日本バイリーン)、林敏昭(東洋紡)、森下あや子 (771)、奥山一博（進和テック）	・ 議長の交代 ISO の規定が改正され、議長任期は最大 9 年になった。Paolo 議長は TC142 が再活性化された 2006 年から 11 年間議長を務めているので、来年の 1 月から新しい議長に交代することが報告された。 ・ 各コンペナーから WG の審議結果が報告され、3 年ごとのコンペナの継続意思確認（議決 N.170,173）を行った後、以下の議決が多数決で承認された。 議決 N.169 他の ISO TC とのリエゾン関係について改めて整理した 議決 N.171 WG2,ISO/CD 15727 UV-C Devices – Measurement of output of UV-C lamp”のプロジェクトリーダーを Mr. He Zhiming(SAC)とする。 議決 N.172 WG13 “Biological equipment for waste gas treatment”, 予定コンペナ: Prof. Jinying

					Xi(SAC)として、新しいWGの結成を問うとともに、エクスパートの推薦を同時に行う投票を実施する。 議決 N.174 WG5/PWI “Laboratory test of duct collection systems utilizing porous filter media online cleaned using pulses of compressed gas – Part 1: System not utilizing integrated fan”の再活性化を問う投票を行う。 議決 N.175 WG7の名称を”Cleanable filter media used in industrial application”に変更し、スコープを「産業用バグフィルタろ布の性質と特性を調査するための試験法の開発」とする。 議決 N.176 WG7/PWI “,Sampling and test method for cleanable filter media taken from filters of systems in operation”, PLを広島大学の福井、金岡先生として立ち上げる。
第11回 ISO/TC 232（公式教育外における学習サービス）総会及び第2回 ISO/TC 232/WG 4 会合	ロシア モスクワ	2016年9月27日～29日	約22名（ドイツ、カナダ、フランス、日本、ケニア、米国、中国、ロシア、ISO/CS、）	（一社）人材育成と教育サービス協議会 中村 公美	・日本の提出した異議申し立てについて審議を行い、日本の主張どおり、委員会運営の透明性・公平性を向上するための決議がなされた。 ・ISO/CSのeditorが行ったISO/DIS 29993に対する技術的な修正箇所について審議した。この会議の後、ISO/CSと調整しながら、DIS投票を始める予定である。 ・TC 232で使用されている用語及び定義の統一について審議した。まずは、TC 232の規格間において用語及び定義の統一を図り、その後、新たな用語について検討することとなった。 ・中国が提案を検討しているEラーニング規格について審議した。本件については、更に検討を行うこととなった。 ・TC 232の目的や活動等について対外的に広報するために、TC 232内にコミュニケーションアドホックグループを設置することとなった。 ・ISO 20599の規格名称及び適用範囲について審議した。
ISO TC22(自動車)/SC34(Propulsion, powertrain and powertrain fluids) 及び SC34/WG7(Engine EGR cooler)国際会議	ロンドン（イギリス）	2016年10月5日及び10月7日	*SC34/WG7 日本：3名 ドイツ：3名 フランス：1名 アメリカ：2名 *SC34 日本：5名 アメリカ：6名 ドイツ：5名 ベルギー：1名 イギリス：1名 フランス：1名	築山 彩子（公益社団法人 自動車技術会	*SC34/WG7 ・WG7としては今回の会議が初回であったため、コンビナ・セクレタリーの承認や、WG7のスコープの承認など運営に関する審議を行い、承認された。 ・2016年4月に新規作業項目として承認されたISO/WD21441の審議を行い、各国から出された50近くのコメント内容の検討を行った。その中で、冷却水の表現・試験液の割合・試験条件の設定などについては合意をみたが、装置構成図についてや、入口圧力などについては、継続審議項目となったため、1月にWeb会議を行う事を決定した。 *SC34 ・WG7のスコープや規格開発の進め方など、WG7の活動内容について報告し、承認された。
IEC/TC57（電力システム管理及び関連する情報交換）/WG21（電力システムと需要家との接続	ドイツ、フランクフルト InterCity Hotel	平成28年10月13日～10月14日	ドイツ、アメリカ、フランス、中国、クロアチア、日本 12人	中村	IEC TS 62746-4 Data Modelの審議方法について議論。コンビナより「あらゆるユースケースに対応するのは時間が足りないので、まずは代表ユースケースで議論を進めたい」との審議の大方針がし消され、日本が代表ユースケースを決めることとなった。日本より、新しいユースケースを提案

インターフェース)					したところ、コンビナより「日本が IEC TR 62746-2 を更新すべし。」と提案があった。日本は IEC TR 62746-2 の更新として NWIP を作成することを国内対応委員会で検討することとなった。
ISO/TC29(工具)/WG34(切削データの記述と交換)及びWG37(回転工具のバランス)	ドイツ国フランクフルト市 (ISO/TC29/WG37) ドイツ国ケルン市 (ISO/TC29/WG34)	2016 年 9 月 26 日 (ISO/TC29/WG37) 2016 年 9 月 27 日～29 日 (ISO/TC29/WG34)	2 か 国 7 名 (ISO/TC29/WG37) 6 か 国 23 名 (ISO/TC29/WG34)	堺 弘司 ((一社)日本工作機器工業会)	ISO/FDIS(案) 16084 Balancing of rotating tools and tool systems に対しての日本コメント(技術的内容)について審議を行い、ほぼ採択されることとなったが、一部、原案作成者が修正案の作成を再度行うこととなり、修正版の FDIS 案を正式に発行する前に事前に日本に送付することを決定。 ISO/WG34 ISO13399 の各パートについての審議と Maintenance Agency のメンバーについて議論された。
IEC/TC85(電磁気量計測器)/MT23 会議 (10/10AM, グリューンベルク, Bender 社) IEC/TC85/CAG 会議 (10/10PM, グリューンベルク, Bender 社) IEC/TC85/WG8 会議 (10/11, グリューンベルク, Bender 社) IEC/TC85/WG20 会議 (10/12, グリューンベルク, Bender 社) IEC/TC85 プレナリ会議 (10/13, フランクフルト, Congress Center) IEC/SyC Smart Energy プレナリ会議 (10/14, フランクフルト, KAP Europe)	ドイツ (詳細は左記参照)	10/10～10/14 (詳細は左記参照)	9 カ国・15 機関及び 25 名	山田 達司, 産業技術総合研究所 物理計測標準研究部門	IEC TC85 に関して、規格案についての現状、課題対策などが協議された。特に、JISC 1102 に対応する IEC 60051 については Part 2～8 が現在 CDV のプロセスであり、試験方法を規定する IEC 60051-9 は今年中に CD 登録することが決議された。また、TC85 における今後の活動方針、組織体制の在り方、既存規格の修正計画、不確かさの扱い方なども話し合われた。特に、不確かさについては、1995 年以降、GUM に対応しない独自の不確かさを導入しているが、今後は新しい WG を作り、さらなる議論を行うことで合意した。日本からエキスパート登録した。 アジアからは、日本と幹事国の中国だけで、この分野が欧米寄りであることが確認できた。また、中国の国内規格を TC85 のルートで国際標準化する方針が垣間見え、ヨーロッパ勢からの反感を感じた。 また、SyC Smart Energy プレナリ会議にも参加し、他の TC との連携 WG である AG を作り、他の TC による CD 文書を審議する機能を持たせるという構想が話し合われた。 尚、当該派遣は、(公財) JKA と(一財)日本規格協会の補助金で行われた。
IEC/SC 86C (光ファイバシステム・能動部品)) /WG 2 及び WG 3	ドイツ・フランクフルト	2016 年 10 月 6 日,9 日	WG2 : 15 名 (7 カ国) WG3 : 16 名 (5 カ国)	山田誠 大阪府立大学工学研究科 教授	<WG2>審議文書 5 件 (主な文書を以下に記載) IEC 61757 ファイバセンサ 総則 改定案審議 IEC 61757-2-1 FBG を用いた温度センサ 審議 IEC 61757 61757-4-3 光ファイバ電流センサ (日本提案) 審議 <WG3>審議文書 16 件 (主な文書を以下に記載) IEC 61290-1-1 光スペクトラムアナライザを用いた増幅特性評価法 改定案審議 IEC 61290-4-3 単一チャンネル出力一定アンプの応答特性評価法 審議 CDV 移行決定 IEC 61291-1 光増幅器 総則 改定案審議 CDV 移行が決定 IEC 61291-5-2 光ファイバ信頼性 CDV コメント審議 IS 移行決定 日本からの新規文書案 (Automatic gain control single channel amplifier transient measurement) を説明 NWIP として回付決定

ISO/IEC JTC1(情報技術)/SC17/WG8,TF3 国際会議	ドイツ国ベルリン市	2016 年 10 月 3 日～7 日	9 ケ国, 総勢 28 名	金子良明 富士通セミコンダクター株式会社 システムメモリ事業部 (国内 WG8 幹事)	(1) TF3 会議 ・テスト仕様の全体構成は, テスト環境の定義から始まり, タイミング試験, 状態遷移試験を行ってから, 各コマンドの試験を行う構成に決まる。 ・高速化仕様と RFU の WD について Review を進め WD として Fix させた。 ・15693-1,2,3 と各 Amd の今後の進め方(Rev3)について決めた。 (2) WG8 会議 ・15693 の Rev3 への改定を進めることが決まった。高速化仕様と RFU の WD は, 15693-2,3 の改定時にマージし, 来年のグラーツ会議にて CD へ進める。エディターは高速化仕様の提案を行った日本が行う。 ・投票案件のコメント処理を行った。14443-2, 3, 4 および 10373-6 の改定を進めることになった。
ISO/IEC JTC 1/SC 17(カード及び個人識別)/WG 4(端子付 IC カード)会議	ドイツ・ベルリン	2016/10/3～10/7	6 ケ国・15 人	山田真生 大日本印刷(株) 情報イノベーション事業部 C&I センター	・ ISO/IEC 7816-8 FDIS ISO 中央事務局へ送付。 ・ ISO/IEC 7816-9 CD3 ～10/24 をレビュー期間として DIS 投票へ。 ・ ISO/IEC 18328-3 FDIS ISO 中央事務局へ送付。 ・ ISO/IEC 19286 CD3 ～10/28 をレビュー期間として DIS 投票へ。 ・ ISO/IEC 7816-4 AMD1(Record handling) WD WD2 へ。10/27 までに修正版が提示され, 1/6 まで投稿受付。 ・ ISO/IEC 7816-4 AMD2(Waiting time management) WD コメント 1 件を Postponed としたが WD2 へ進むこととなった。10/27 までに修正版が提示され, 1/6 まで投稿受付。 ISO/IEC 18328-4 NWI WD へ。11/30 までに WD が提示され, 1/6 まで投稿受付。
IEC/TC69 (電機自動車及び電動産業車両) プレナリ会議 および IEC/TC61 (家庭用電気機器の安全性) プレナリ会議	ドイツ フランクフルト	IEC/TC69 プレナリ会議 ('16.10.10) IEC/TC61 プレナリ会議 ('16.10.10-14)	IEC/TC69 プレナリ会議 France, Belgium 等各国 NC 代表 55 名程 IEC/TC61 プレナリ会議 ('16.10.10-14) Italy, US 等各国 NC 代表 138 名程	木場一郎 自動車技術会電動二輪分科会 ヤマハ発動機株式会社	IEC/TC69 ・ IEC/TC69/JPT61851-3 リーダーシップ見直しを議論, 日本からの候補者を新規提案した。 他の候補者も募り, 各国投票を行う事を合意。 ・電動二輪車用の DC 充電ステーション規格を日本より提案した。 提案する事へ異論なく, 日本より提案を進めることとなった。 IEC/TC61 ・ IEC60335-2-29 家庭用充電器規格の改訂審議へ参加した。 充電器の出力電圧範囲を拡大した上, CDV ステージへ移行する。 ・ IEC/TC61 から ISO/TC22/SC38, ISO/TC149/SC1 および IEC/TC69 へのリエゾンレポートを報告。

					リエゾンの維持と、リエゾンレポートの内容が確認された。
IEC/SC 86C（光ファイバシステム・能動部品）/WG 2 及び WG 3	ドイツ・フランクフルト	2016 年 10 月 6 日,9 日	WG2：15 名（7 カ国） WG3：16 名（5 カ国）	山田誠 大阪府立大学工学研究科 教授	＜WG2＞審議文書 5 件（主な文書を以下に記載） IEC 61757 ファイバセンサ 総則 改定案審議 IEC 61757-2-1 FBG を用いた温度センサ 審議 IEC 61757 61757-4-3 光ファイバ電流センサ（日本提案） 審議 ＜WG3＞審議文書 16 件（主な文書を以下に記載） IEC 61290-1-1 光スペクトラムアナライザを用いた増幅特性評価法 改定案審議 IEC 61290-4-3 単一チャンネル出力一定アンプの応答特性評価法 審議 CDV 移行決定 IEC 61291-1 光増幅器 総則 改定案審議 CDV 移行が決定 IEC 61291-5-2 光ファイバ信頼性 CDV コメント審議 IS 移行決定 日本からの新規文書案（Automatic gain control single channel amplifier transient measurement）を説明 NWIP として回付決定
IEC/TC108(オーディオビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性)/Plenary/HBSDT	ドイツ／フランクフルト	2016 年 10 月 10 日から 14 日	US, カナダ, ドイツ, イギリス, ノルウエー, デンマーク, スウェーデン, 中国, 他 約 60 名	近藤 孝彦	5 日間の会議期間中、HBSDT 会議及び Plenary 会議に参加した。 HBDT 会議では、IEC62368-1 Ed.3 作成に向けた文書（108/657/DC, 108/649/DC, 108/653/DC）, IEC/TR62368-2 Ed.3 作成に向けた文書（108/653/DC）のそれぞれの文書に対する各国コメントの審議を行った。結果として、IEC62368-1 ed.3 については 2ndCD を、IEC/TR62368-2 Ed.3 については DC を、それぞれ発行することが決定した。 IEC62368-3 Ed.1 発行に向けた文書（108/639/CD）に対しては前回（2016 年 5 月）会議にて審議が出来ていなかった部分を今回審議し CDV を発行することが決定した。その他として、IEC60065 に編集上の修正が必要であること、及び IEC60950-1 の規格解釈について INF を発行することが審議された。 Plenary 会議では、副議長の設置に対する提案が承認され、現議長である Remy 氏が退任後の 2017 年 1 月から就任することとなった。また WG のコンビナーの継続に対して審議し、継続を承認した。108/586/NP で承認された IEC 63007/Ed1: Safety of Modular Data Centres は、規格化が困難であることが判明したため、このプロジェクトを中止し、PT も解散することが決定した。
IEC TC108（オーディオビデオ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性）プレナリー及び HBSDT フランクフルト国際会議	フランクフルト（ドイツ） ドイツ UL	10/10～10/14	約 50 人（日本から 8 人）	柴田 恵	1)HBSDT 会議では、①IEC62368-1 (AV 及び ICT 機器の安全)の第 3 版案の CD 文書(108/657/DC)に対する各国コメント計 152 件(内、日本から 38 件)の審議を行った。日本コメントの多くは、趣旨は理解され、それを反映したものが、2 nd CD 文書として発行されることになった。 ②感電に関する新規要求(スイッチング電源の二次側の整流回路前が ES1 を超える場合の扱い)の DC 文書(108/649/DC)を審議したが、日本からの修正提案を含め、コンセンサスが得られず、アドホック（筆者も参加）で継続審議されることになった。 ③新規提案の WD, 19 件を検討, 13 件を採用した。（日本からの提案は、9 件中、6 件採用）
IEC/TC108（オーディオビデオ	ドイツ／フランク	2016 年 10 月 10 日(月)	米国, カナダ, ドイツ, イギ	佐藤 幸一	5 日間の会議期間の中で HBSDT 会議及び Plenary 会議に参加した。

オ、情報技術、通信技術分野における電子機器の安全性） Plenary 及び HBSDT	フルト	～14 日(金)	リス、ノルウエー、デンマーク、スエーデン、中国、他 約 60 名		HBDT 会議では、IEC62368-1 Ed.3 作成に向けた文書（108/657/DC、108/649/DC、108/653/DC）、IEC/TR62368-2 Ed.3 作成に向けた文書（108/653/DC）のそれぞれに対する日本、その他各国からのコメントの審議を行った。その結果、IEC62368-1 Ed3 に向けては再度 CD（2ndCD）を、IEC/TR62368-2 Ed.3 に向けては再度の DC を、それぞれ発行することとなった。 IEC62368-3 Ed.1 発行に向けた文書（108/639/CD）に対しては前回（2016 年 5 月）の San Diego 会議の結果と合わせて CDV を発行することとなった。その他に、IEC60065 に編集上の修正が必要なため Corregendum を発行することが決定された。 Plenary 会議では、副議長の設置に対する提案が承認され、現議長である Remy 氏が退任後の 2017 年 1 月から就任することとなった。また WG のコンビナーの継続に対して審議し、継続を承認した。日本が反対しながらも賛成多数で Project を開始することとなった Safety of Modular Data Centres の規格案(IEC 63007/Ed1)は、Project 会議を持って審議した結果、Project を進めることが困難であることが判明したため、このプロジェクトを中止し、PT も解散することが決定した。
IEC/TC 122 (UHV 交流送電システム) /WG 1 国際会議、 IEC/TC 122 国際会議および IEC/TC 120(電気エネルギー 貯蔵システム)国際会議	ドイツ・フランクフルト	平成 28 年 10 月 12 日～ 10 月 14 日	IEC/TC 122/WG 1: 4 ヶ国 16 名 IEC/TC 122 : 9 ヶ国 33 名 IEC/TC 120 : 16 ヶ国 43 名	東京電力パワーグリッド株式会社 加藤 辰也	(1) IEC/TC 122/WG 1 ・CD のドラフトに関する議論と今後のスケジュール調整を実施。 ・CD の作成に向け、各国と連携しながら取り組むことを相互で確認。 (2) IEC/TC 122 プレナリ会議 ・各WG からの進捗報告および今後のスケジュールが報告。 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 (3) IEC/TC 120 プレナリ会議 ・各WG・ahg からの活動報告。ahg 1 の解散を決議。 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 ・TC 8 とのリエゾンオフィサーとして、TC 8 の状況を報告。
IEC/TC 122 (UHV 交流送電システム) /WG 1 国際会議 IEC/TC 122 国際会議	ドイツ・フランクフルト	2017 年 10 月 12 日(水) 2017 年 10 月 14 日(金)	IEC/TC 122/WG 1: 4 ヶ国 16 名 IEC/TC 122 : 9 ヶ国 33 名	東京電力パワーグリッド株式会社 正力重仁	(1) IEC/TC 122/WG 1 取り組んでいる CD 草案についての議論と今後のスケジュールの調整を行われ、CD 登録に向け引き続き各国と連携しながら取り組むこととなった。 (2) IEC/TC 122 各 WG からの報告と、各委員会 (TC 8, TC 14, TC 28, TC 99, CIGRE SC A2, IEC 中央事務局) からの情報提供が行われるとともに、基本文書や SBP (Strategic Business Plan) 等の更新、ならびに今後のスケジュールが確認された。
IEC/TC72 (自動電気制御装置) 国際会議	ドイツ、フランクフルト(コンベンションセンター)	平成 28 年 10 月 10 日～ 13 日	ドイツ、英国、イタリア、オランダ、デンマーク、スイス、米国、カナダ、中国、韓国(オプザバ)、日本の計 11 か国 22 名	田伏 弘幸 (日本ガス機器検査協会 認証技術部)	(1) 第 1 部規格の再構成 電気制御装置の安全要求事項を記載した規格であるが、利用者から使いにくいなどの課題が指摘されていて、対応を議論した。 (a) より読みやすい構造にすることになり、有志で DC を 2017 年 6 月までに作成する計画を承認した。2017 年の秋会議から具体的検討を開始する。 (b) IEC/ISO ガイドへの整合

					TC72 の規格が、最近のガイドに整合した構成になっているか検討した。基本的に内容を改訂する必要はないが、今後の改訂作業では、ガイド群を念頭にすることになった。 (2) IEC/TC108 などとのリエゾン強化 IEC/TC108 などでは TC72 と異なる考え方で安全を議論している状況を確認した。リエゾン活動を強化して、安全に実績のある TC72 の考え方を普及させるべきとなった。IEC/TC108 にコメントを提出することにした。 (3) 日本国内の関連活動報告 日本規格協会主導で、整合 JIS を開発している現状報告を行なった。 議長から日本の国際規格に基づく規格体系の変更（性能規定化）が行われていることを評価すると の発言を得た。
ISO/TC161(ガス及び油用安全及び防護装置) 国際会議	ドイツ、フランクフルト、VDMA(ドイツ機械工業連盟)	2016 年 10 月 17 日～21 日	9 か国(スペイン、フランス、ドイツ、イタリア、韓国、イギリス、カナダ、米国、日本)、19 名	田伏 弘幸（一般財団法人日本ガス機器検査協会、認証技術部）	WG3(制御器),4(多機能制御器),5(高圧制御器)について会議が開催された。 (1) 全体として、ほぼ日本の主張を通すことができた。部品の電気の要求事項は、IEC/TC72 が開発した IEC 規格を引用することが定着し、IEC 規格と ISO 規格のダブルスタンダードの可能性をなくす方向性を確立できた。 (2) 第 1 部である ISO 23550 の DIS 版を、現在開発中の第 2 部の基礎とする方向が固まった。 (3) WG3（低圧制御器）で、ISO 23551-11(高圧自動弁、500kPa 超)の開発に着手した。第 1 部の規格と適用範囲が異なるため、注意を要する。各国は、専門家の招集を求められている。 (4) WG5(高圧制御器)は、TMB 決意に基づき、ISO 23555-1（高圧制御器の一般要求事項）の審議に着手した。WG5 については、新たなエキスパートを募集するよう求められた。 (5) ISO 23550 から油関連要求事項を削除したので、油関連の他の ISO 規格の検討を着手すべきところ、各国から NWIP がないため、議長から各国に提案する事案がないか検討するように要請された。
ISO/TC 268（コミュニティにおける持続可能な開発）/SC 1/WG3 第 2 回会議	Boston/U.S.A	10 月 3 日（月）	日本、米国 計 12 名	細川 寛(中央復建コンサルティング(株))	日本から提案のコンパクトシティー向けスマート交通及び電池によるスマート交通に関する NWIP 投票結果を受けての討議、及び米国から提案のパークアンドライドによるスマート交通に関する米国素案に関する討議を行った。 ・米国提案の 1 件については、NWIP の投票をすることに合意した。 ・コンパクトシティー向けスマート交通に関する規格：改訂版を CD 投票に付すことで合意した。 ・電池によるスマート交通に関する規格：次回会合にて改訂案に関する議論を行うこととなった。
IEC/SC 86C(光ファイバシステム能動部品)/WG 2	ドイツ・フランクフルト	2016 年 10 月 6 日	WG2：15 名（7 カ国）	村山 英晶 東京大学 大学院工学系研究科 准教授	<WG2> 審議文書 5 件（主な文書を以下に記載） (1)改定案文書の審議

					IEC 61757 ファイバセンサ 総則 (2)日本提案のプレゼン及び審議 IEC 61757 61757-4-3 光ファイバ電流センサ (3)新規提案文書の審議 IEC 61757-2-1 FBG を用いた温度センサ IEC 61757-3-2 ed.1 Acoustic sensing – Distributed acoustic sensing IEC 61757-3-2 ed.1 Strain measurement – Distributed strain measurement
ISO TC22(自動車)/SC32/WG02 Kickoff Meeting of ISO 21767 48V	フランス・パリ	2016 年 11 月 2 日～3 日	フランス 7 名, ドイツ 10 名, 英国 2 名, スウェーデン 1 名, 韓国 1 名, インド 1 名, 日本 2 名	舟越 浩 (三菱自動車)	48V 電源機器試験法の国際規格 (ISO21767) 制定に向けたキックオフミーティングが開催され, メンバー顔合わせ, 今後の進め方についてのコンセンサス, ドラフトに沿った議論が行われた。 PL には, NWIP 提案元である仏 Pietro Dolcini 氏が選出された。 1st WD の議論に於いては, キックオフミーティングと言う位置付けであったため, お互いの意見を述べる程度に留まったが, 各国・各社の思惑が入り乱れており, 一つの形にまとめるのは容易ではない見込み。一般要求とコンポーネント要求の分離の件で PL も別々に据えるべきと提案が述べられ, 独仏間で時間を掛けて意見の応酬があった。結論が出ずに先送りとなったが, 規格化へ向けて協力し合うという方向で話が進められた。 今後は各試験項目についての詳細な議論へと進むことになるが, 自国の利益を意識しつつ慎重に意見していきたいと考える次第である。
ISO TC22(自動車)/SC32/WG02 Kickoff Meeting of ISO 21767 48V	フランス・パリ	2016 年 11 月 2 日～3 日	フランス 7 名, ドイツ 10 名, 英国 2 名, スウェーデン 1 名, 韓国 1 名, インド 1 名, 日本 2 名	川上 泰 (三菱電機)	48V 電源機器試験法の国際規格 (ISO21767) 制定に向けたキックオフミーティングが開催され, メンバー顔合わせ, 今後の進め方についてのコンセンサス, ドラフトに沿った議論が行われた。 PL には, NWIP 提案元である仏 Pietro Dolcini 氏が選出された。 1st WD の議論に於いては, キックオフミーティングと言う位置付けであったため, お互いの意見を述べる程度に留まったが, 各国・各社の思惑が入り乱れており, 一つの形にまとめるのは容易ではない見込み。一般要求とコンポーネント要求の分離の件で PL も別々に据えるべきと提案が述べられ, 独仏間で時間を掛けて意見の応酬があった。結論が出ずに先送りとなったが, 規格化へ向けて協力し合うという方向で話が進められた。 今後は各試験項目についての詳細な議論へと進むことになるが, 自国の利益を意識しつつ慎重に意見していきたいと考える次第である。
ISO/PC 295 (監査データ収集) 国際会議	アメリカ合衆国, ニューヨーク, 米国公認会計士協会	2016 年 11 月 16 日-19 日	中国, 米国, ロシア, マレーシア, クウェート, フィンランド, オランダ, 日本	公認会計士 木村章展	【主な議題】 ISO/PC 295 WG 1 で作成中の"Audit Data Collection" Working Draft の内容レビューと CD に向けた構成の確認及び今後の作業日程の検討である。 【主な議論】 現在作成中の WD は, 中国 GB/T19581-2004などを参考にした中国案と米国公認会計士協会 (AICPA) が作成した"Audit Data Collection"が対象とする機能モジュール, テーブル, 構成要素を比較検討した結果についてのレビューを実施した。日本からは UML を紹介し, 論理データモデルと物理ファイル形式を分けて規格に盛り込むことや日本の実務慣行を紹介することを提案した。

IEC TC120 (Electrical Energy Storage System) ・ Plenary Meeting ・ WG5(PT) Meeting	ドイツ フランクフルト	2016 年 10 月 13 日 Plenary Meeting 14 日 WG5(PT) Meeting	・ Plenary Meeting 43 名 (日, 米, 英, 独, 仏, 西, 蘭, 豪, 韓, 加 他) ・ WG 5(PT) Meeting 17 名 (日, 米, 伊, 豪, 蘭, 韓 他)	東京電力エナジーパートナー(株) E & G 事業本部 ファシリティ運用 G 良知 秀樹	IEC TC120 (電気エネルギー貯蔵システム) の第 6 回プレナリーミーティングと WG5(PT)ミーティング (安全) に出席した。 プレナリーミーティングでは, 新たに WG 主査になる人の承認, WG1~5 の進捗報告, ahG1 の最終プレゼン, SBP レビューが行われ, 次回は 2017/9 月にパリで開催することが決まった。ahG1 の成果をまとめた最終プレゼンが行われ, 会場賛成多数で解散することが承認された。また, WG5 のなかで化学電池に特化した電気エネルギー貯蔵システムの安全性に関する規格をつくる PT の設立が紹介された。WG5 での進捗報告があり, CC2 のあと DTS に進むこととなった。 WG5 ミーティングでは, CC2 のドラフトを修正し DTS に進むことを再確認し, ドラフト中の単語の使い分け方を統一し, ネーティブチェック期日を確認した。 WG5 のなかに PT が新設され, 今回初めて開催された PT ミーティングでは, 参加するメンバーの確認と PT の目的, スコープを確認した。最近の電気システムの普及と事故を鑑み, 規格化の必要性を確認した。次回は 2016/12 月に東京で会議開催予定。
IEC TC8/SC8A Grid Integration of Renewable Energy Generation WG 1 Terms and difinitions of grid integration of renewable energy generation(IEC 62934 Ed1.0) Meeting IEC TC8/SC8A Grid Integration of Renewable Energy Generation plenary meeting IEC TC8 Systems aspects for electrical energy supply plenary meeting	ドイツ フランクフルト	2016 年 10 月 10 日 SC8A/WG1 12 日 SC8A プレナリ 14 日 TC8 プレナリ	SC8A/WG1 議長 Lingzhi ZHU エキスパート 13 名 SC8A プレナリ 議長 Bernhard Ernst 幹事 Yongning Chi NC 代表 20 ヶ国 38 名 TC8 プレナリ 議長 Herve Rochereau 幹事 Nicola Cammalleri NC 代表 23 ヶ国 59 名	東京電力 H D (株) 経営技術戦略研究所 知的財産室 国際標準化推進 G 原 宗成 (東京電力 H D)	・ IEC TC8 (電力システム), SC 8A (再生可能エネルギーの系統連系) ,WG 1「再生可能エネルギーの系統連系に関する用語と定義」の第二回ミーティングが 10 月 10 日 ドイツ・フランクフルト VDE-Siemens で開催された。 (1)IEC62934 の構成について審議 各章の構成について WG の承認を得た。 (2)各章の内容について審議 GB 規格 (中国) などからの引用ではなく, 基本的に IEC から引用を推奨。 コンビナーが WD を修正し, 改めてメンバーに提示することとなった。 IEC 62934(TS)の WD を 2017 年 3 月までに修正。 (3)サブグループのメンバー割り当て 今回のミーティングにおいて原は SWG 1 を担当することとなった。 (4)次回会議の期日・場所 次回 WG は, 1 月に web 会議または F2F 会議を開催予定。 ・ IEC TC8 (電力システム), SC 8A (再生可能エネルギーの系統連系) プレナリミーティングが 10 月 12 日にドイツ・フランクフルト Congress Center-Harmonie Hall D1 で開催された。 (1)SC 8A/WG 1 (再生可能エネルギーの用語) 今年度成立した WG であり, 中国が主査。8 章からなる用語とその定義を検討中。 サブグループにメンバーを割り当て活動を進めている。 2017 年 3 月に 1st CD を回付予定。 (2)SC 8A/WG 2 (再生可能エネルギーの出力予測) 本 WG では, TR における予測期間 (短期, 中期, 長期) とその目的 (周波数・電圧調整, 需給運用, 設備設置検討) に関して, 2018 年末に TR を発行予定。 (3)SC 8A/AHG 1 (再生可能エネルギー系統連係要件の遵守)

					AHG 1において検討した結果、TS（技術仕様書）を目標として、再度、NPが提出され、WG3として成立。TC 82（太陽光発電）と係し、JWG1として、作業を開始する予定である。 (4)SC 8A/AHG 3（SC 8Aのロードマップ） SC 8Aのロードマップを作成する提案がストレザ会議においてなされ、AHG 3が発足した。日本からも参加している。 キックオフミーティングは12月または1月に開催予定。 (5)IEC TC8/SC8Aの次回プレナリミーティングの開催についてはTC8の開催に合わせ2017年10月2日～13日の間でソ連・ウラジオストックにて開催予定。 ・IEC TC8（電力システム）プレナリミーティングが10月14日にドイツ・フランクフルトKAP-C1-Plateau 1で開催された。 (1)TC 8のタイトルとスコープ変更 DCではElectrical energy infrastructureであったが、タイトルについては軽微な変更となった。 (変更前) Systems aspects for electrical supply (変更後) System aspects of electrical supply スコープについては日本から提案が採用された。 TC 8として決議し、今後、SMBへ変更承認を求めることとなった。 (2)WG 7（マイクログリッド） WG 7はIEC/TS 62898パート1及びパート2の3rdCDのコメント審議を行っている。また、新たにIEC/TC 62898-3-1（マイクログリッドの保護）のNPが承認されたことが報告された。 (3)WG 8（メンテナンス） メンテナンスを扱うTSを開発するWGで今年成立。8月に第1回会議を開催し、提案された二つのTSを一本化することとした。また、主査の交代について報告があり、TC 8として了解した。 (4)リエゾン報告ほか TC 82から報告があり、日本より、PT 62786の太陽光特化バージョンを提案したいとの発言をし、審議の結果、TC82とのJPTを設置し、日本のNP提出を待つこととなった。 (5)SEG 6の状況 SMB/SEG 6（非従来型マイクログリッド）の最終報告が出されたこと、報告書ではTC 8下のSCとして活動することが推奨されているとの報告があった。これを受けて、TC 8内で、SC提案を回付することについて決議した。 (6)次回会議 2017年10月IEC総会に同調開催とし、2017年10月2日～13日の間でウラジオストックにて開催する方向でロシアNCと調整をすすめることとした。
ISO/IEC JTC1/SC 28/WG 5 ロンドン国際会議	ロンドン（英国） British Standards Institution	12/5～12/6	9名（英3, 米1, 中1, 蘭2, 日本2）	森 本 悦 朗 (SC28/WG5J 主査, リコー)	SC28/WG5 取組中案件である、ISO/IEC TR21565 「Viewing environment guideline for office equipment」に関する審議が行われ、PDTRが合意に至り今後の進め方を確定した。検討中案件である、NWI-1, 2, 5は、「Automated office colour

					management」と「Guidelines for the development of an ontology for Office Equipment」の2件のPWIへの分割を決定し、今後の進め方を確定した。
ISO TC 281 会議, WG 1 会議	英国 ロンドン市	平成 28 年 11 月 24 日, 25 日	英国, 韓国, シンガポール, 日本	ISO/TC 281 WG 1 Expert 田中 充	コンビーナからファインバブル技術に関する一般原則”用語”課題の DIS 投票・出版の経過、及び“一般原則”の CD 投票結果が示された。 PL が議論を主導し、投票時のコメント対処案が示され審議して、WG としての対処案が決められた。 TC 281 の階層構造に関する記述は不要、削除せよとの英国意見が強く表明されたが、PL より前回詳細に審議し、合意に基づいて記載が認められたので、変更するわけにゆかないと説明があった。 審議の結果、アネックスに移動させることで合意した。 また、本規格で扱う媒質について議論された。水だけを対象としているが、オイルやチョコレートも取り扱うべきとの意見が出された。これらは今後の議論の場で審議し、1 月末迄に改訂案を作成することとした。作成に当たっては、英国エキスパートが PL を支援することとした。 “一般原則”に関する規格案は、会議後に回付し、DIS 化投票することで合意した。
ISO TC 281 会議, WG 2 会議	英国 ロンドン市	平成 28 年 11 月 24 日, 25 日	英国, 韓国, シンガポール, 日本	ISO/TC 281 WG 2 Expert 島岡 治夫	① サンプリング及び試料調製－ウルトラファインバブル（UFB）分散水 「希釈」は、高濃度 UFB 測定において必要との理解が得られ解決。「均質化」は ANNEX に移動。 ② UFB 分散水の保存及び輸送 2016 年春に日英間で実施した比較試験の結果を報告し、規格案の妥当性を示せた。 上記①②の日本提案は、修正後回覧し、承認されれば DIS 登録されることが決議された ③ マイクロバブルの特性評価－サイズインデックス DIA 以外に、LO, LD, 超音波法を追加することになり、英国と共同でデータ整備を行う。 ④ ファインバブル特性評価のための計測マトリクス（英国提案） 修正案を回覧し、承認されれば CD 登録することを決議。
ISO TC 281 会議, WG 3 会議	英国 ロンドン市	平成 28 年 11 月 24 日, 25 日	英国, 韓国, シンガポール, 日本	ISO/TC 281 WG 3 エキスパート	・油分洗浄評価規格案（日本提案）は、前回の会議で試験法の再現性、信頼性を示すデータが必要との指摘があり、これに対応するため、今回の会議で以下具体的な作業スケジュールを示した。 ①NWIP 投票時に出されたコメントに対応した WD を作成する（～17/1/E）②WD の回付とコメント回収（～17/4/E）③国内での試験データ取得（～17/3/E）④国際比較テストを開始（17/4/B～） 国際試験の実施国は今後調整する。本案は、文書回覧後、CD 投票することになった。 ・構造物の塩除去評価方法（日本提案）は、NP より進展するためには、FB に優位性を示す試験データの取得が必要であると英国より指摘があった。 ・水処理分野での FB による殺菌効果の評価法（韓国提案）は、タイトルとスコープを変更し、各国からのコメントに対応した修正案を回付することで合意。
IEC TC91 国際会議 （出席：TC91 Plenary,WG13,WG14,AG16）	独国 フランクフルト市 （Messe	平成 28 年 10 月 10 日～ 10 月 14 日 （出席: 10 月 10 日～	日本,米国,英国,独国,韓国,中国より コンベナ及びエキスパート	高橋 満 一般社団法人 電子情報通信学会	日本が主導しているデザインオートメーション標準の重要事案における課題解決と加速推進を図るため IEC/TC91 Plenary 及び関連 WG 会議に出席した。 ①TC91/WG14 会議ではコンベナとして会議を開催し異種の電子部品データベースの統合化技法に

	Frankfurt / Congress Center)	10 月 14 日)	計 35 名	規 格 調 査 会 TC91/WG14 主査	関する Ontological specification の TS 案を投票プロセスに進めることを確認した。 ②TC91/WG13 会議では 5 月の投票で賛成多数で承認された IEC/TR 63051 Ed.1.0 の米国コメントに対する RVC の内容への合意を得て年度内に発行する道筋を固めた。 ③TC91/AG16 会議では”Project Form”適用ほか TC91 の活動活性化と充実のための施策を策定した。 ④TC91 Plenary 会議では各 WG の会議結果が報告され重要事案の展開計画が承認された。
IEC TC91 WG13 会議、WG11 会議、TC91 プレナリー会議	独国フランクフルト市	2016 年 10 月 9 日～10 月 14 日	9 名(WG13)、7 名(WG11)、30 名(TC91 プレナリー会議) 日本、米国、英国、独国、韓国、中国、フィンランド(7 カ国)	コジマイーデザインオフィス 小島 智	(1)WG13 (設計記述言語) - 日本提案 IEC 63055 Ed.1.0 (IEEE2401 LPB-2015)が 5 月 FDIS 投票で承認, 1 2 月 IS 発行予定 - 日本提案 IEC 63051 Ed.1.0 (HDLMath)が 5 月 DTR 投票で承認, 1 2 月 TR 発行予定 - IEC 62014-1 Ed.1.0 (IBIS 3.2-1993)の取下げが 2 月投票で承認, 1 2 月取下げ予定 (2)WG11 (データフォーマット) - IEC 61182-1 Ed.1.0 (IPC-D-305), IEC 61182-7 Ed.1.0 (Test Information)と IEC 61182-10 (Data Hierarchy) の取下げが 2 月投票で承認, 1 2 月取下げ予定 - IEC 61182-2 Ed.1.0 (IPC-2581 Rev.1)と IEC 61182-2-1 Ed.1.0 (IPC-2581 Rev.1 Amendment) の取下げを提案しプレナリー会議で承認, 1 2 月投票予定
IEC TC91 WG13 国際会議	独国 フランクフルト市 (Messe Frankfurt / Congress Center)	平成 28 年 10 月 10 日～ 10 月 14 日 (出席: 10 月 11 日 ～ 10 月 12 日)	日本,米国,英国,独国,韓国,中国 より コンベナ及びエキスパート 計 35 名	神戸尚志 近畿大学理工学部教授 TC91 DAWG 国内委員会主査	日本が主導しているデザインオートメーション標準の重要事案における課題解決と加速推進を図るため WG13 会議に出席した。 ①TC91/WG13 会議では 5 月の投票で賛成多数で承認された IEC/TR 63051 Ed.1.0 の米国コメントに対する RVC の内容への合意を得て年度内に発行する道筋を固めた。 ②TC91/WG13 米国委員 Alec Stanculescu 氏 (数学アルゴリズム記述言語の一種類である FinSimMath の開発者) と協議し, IEC 63055 Ed.1.0 についてコメントを得て, 必要な修正を行った。
28 th Meeting ISO/TC172/SC7 第 28 回 ISO/TC172/SC7 国際会議	Sydney/Australia オーストラリア／シドニー	2016 年 10 月 24 日(月)～ 2016 年 10 月 28 日(金)	参加国 15 ヶ国 参加人数 106 人	砂田 カ 一戸 節	主に TR22979, ISO 11979-7, 11979-10 の改定を中心に会議が行われた。これまでの流れでは、細かい規定を作り上げるというよりも、ある程度余裕を残して規格を制定し、細かな部分については個々の製品のリスク分析に委ねるという方向になっている。 11979-7 (クリニカル) - 前回から引き続き 2006 年版からの改定について, CD に対する 200 を超えるコメントについて検討した。 - そのほか, 細かな語句や言い回しの調整を行い, DIS への移行が全会一致で提案された。 11979-10 (Phakic IOL) - 前回に引き続き, CD に対するコメントを中心に議論した。 - そのほか, 大きな問題は無く, CD から DIS への移行が全会一致で提案された TR22979 (デザイン変更) - プロジェクトの期限が近づいているため, 今回の会議での最終化を目指して検討された。

					－ 全会一致で、最終化ということとなった。
第 5 回 ISO/TC 232/WG 3 会合 第 3 回 ISO/TC 232/WG 4 会合 遠隔学習サービス ADHG 会合 用語に関する ADHG 会合 コミュニケーション ADHG 会合	フランス パリ	2017 年 1 月 16 日～18 日	約 13 名（ドイツ、フランス、米国、中国、日本）	（一社）人材育成と教育サービス協議会 中村 公美	➤ ISO/DIS 29993 に対するコメントを議論し、IS として発行することに合意した。(TC 232/WG 3 会合) ➤ ISO 29992 の適用範囲・構造について議論。具体的にドラフト作業を進めるため、2017 年 2 月下旬にワシントン D.C.にて次回 WG 4 会合を開催する。(TC 232/WG 4 会合) ➤ 中国から提示されたドラフトを検討し、遠隔学習サービスの要求事項のみに特化した規格の開発を目指すこととなった。(遠隔学習サービス ADHG 会合) ➤ ISO 29993 及び ISO 29991 の用語をベースとした用語規格を開発することとなった。(用語に関する ADHG 会合) ➤ ISO/TC 232 規格の利用を促進・支援するために、TC 232 の新たな HP の設置、ソーシャルメディアの活用等を通して、積極的に情報発信することとなった。(コミュニケーション ADHG 会合)
IECEE PSC (Policy & Strategy Committee)	アメリカ合衆国 レイクフォレスト	2017 年 2 月 17 日	10 ヶ国・22 名 (IECEE 事務局を含む)	地主 真悟／（一財）日本品質保証機構	IECEE の今後の方針・戦略を議論することを目的とした本委員会は、公平で健全な発展に向けた議論を行うために、加盟国に承認された産業界および認証機関のエキスパートによって構成される。また、産業界と認証機関の代表がセットで出席しなければ、正式な出席国として認められないというルールがある。しかしながら、近年の委員会では産業界からの出席が少なく、今回は「いかに産業界からの参加を促すか」という点に多くの時間を割いて話し合われた。具体的な方策は決議されず、タスクフォースを設置して集中審議することとなった。 その他には、利用が進んでいない一部サービスの継続の是非や、今後新規サービスを検討する際のマーケットインパクト分析に関するルール文書等について議論が行われた。 ➤ なお、本会議への出席にあたっては、その渡航費について（公財）JKA の補助金を受けている
ISO/TC 268/SC 1/WG 3	フランス/パリ（会場：AFNOR）	2017 年 2 月 8 日（水） 9:00a.m.～17:00p.m.	日本 11 名 UK 1 名 FR 1 名 USA 1 名	細川 寛	・日本提案の 3 案件について、以下のとおり進捗があった。 1)「スマート交通一般に関するガイドライン」(ISO/DIS 37154)：DIS 投票結果を受けてコメントの確認及び対応についての議論を行い、FDIS 投票に付すことで合意。 2)「コンパクトシティー向けスマート交通」(ISO/CD 37157)：CD 投票結果を受けてコメントの確認及び対応についての議論を行い、DIS 投票に付すことで合意。 3)「電池バスによるスマート交通」(ISO/WD 37158)：WD 第 2 稿の確認を行い、CD 投票に付すことで合意。 ・日本から提案予定の「都市間ラピッド・トランジット型スマート交通」及び「ニュー・タウン設置向けスマート交通」の概要の説明を行った。 ・米国から提示された「パーク・アンド・ライドによるスマート交通ガイドライン」および英国から提案予定の「自動車線の自動運転によるスマート交通」について概要を確認した。
ISO/IEC JTC 1/SC 17/WG 8	グレートコーン（オーストリア）	2017-02-26 ～ 2017-03-03	26 名(オーストリア、フランス、ドイツ、日本、スロベニ	金子 良明 (富士通セミコンダク	・ISO/IEC 15693-1, -2, -3 改定案の審議を行い、CD 投票へ進めることを決議した。 ・ISO/IEC PDAM 14443-2,3,4(Dynamic power level management)の投票結果のコメント処理を

			ア、英国、米国)	ター株式会社)	進め、修正後の内容で 3rd PDAM 投票へ進めることを決議した。 ・ ISO/IEC 10373-6(Dynamic power level management)の内容確認し、CD 投票へ進めることを決議した。
IEC/ SC77B/MT12 maintenance team 12 working meeting	Reunion (フランス) Saint-Gilles	2017 年 2 月 20 日～24 日	ドイツ、フランス、スイス、イタリア、アメリカ、イギリス、日本 計 17 名	Hedderich Georg	・ IEC 61000-4-2 CD READY の審議 前回会議での課題に対する検討案と新たに提出された検討データの審議を行った。 ・ IEC 61000-4-4 の経過確認 2012 年に発行された第 3 版についての、課題が確認された。 ・ IEC610000-4-5 の審議 2014 年に発行された第 3 版の内容について他の国際団体 (ITU-T、CISPR、IEC SC37 等) での引用を 不可とする誤解を解くための INF 文書を作成し、発行する。 DC-DC コンバータに対する不具合を解決するための Amendment の CDV 投票を審議し、FDIS ステージを 省略して発行手続きに移行する。 ・ IEC61000-4-12 の審議 CDV 投票の内容を審議し、FDIS ステージを省略して発行手続きに移行する。 ・ IEC61000-4-18 の CD READY の審議 前回会議での課題として提案された草案を組み込み、CD 文書を審議し次回会議までの課題を整理した。
第 4 回 ISO/TC 232/WG 4 会合	米国 バージニア州 アレキサンドリア	2017 年 2 月 21 日～23 日	5 名 (米国、フランス、日本)	(一社) 人材育成と教育サービス協議会 中村 公美	アセスメントに関するアンケート調査に対する回答について発表、検討。 ISO/WD 29992 の議論。ISO/TC 232/WG 4 内で意見照会後に CD 投票を実施することに合意。
ISO/TC 127/SC 2/JWG 28 (土工機械・衝突検知及び回避) 第 3 回国際ジョイント作業グループ会議	米国カリフォルニア州サンディエゴ市クラウンプラザホテルミッションバレー会議室	平成 29 年 3 月 1 日(水)～ 3 日 (金)	米国(ANSI)7 名, オーストラリア(SA)1 名, ドイツ(DIN)1 名, 日本(JISC)5 名 計 14 名	小倉 公彦 (一般社団法人日本建設機械施工協会)	日本提案の ISO/WD 21815 シリーズ第 1 部～第 3 部に関する議論。日本コンビナーが全体をとりまとめ、各パートのプロジェクトリーダを日本・米国・オーストラリアが務める。前回会議の後、作業案文に対し各国から提出された意見を基に、出席した専門家らが議論した。今回の結果を踏まえ、さらに作業案文の修正を行い、各国専門家及び EMESRT (海外の鉱山機械整備専門業者による安全に関する協議会) へ回付することとなった。意見照会の後、次回の国際ジョイント作業グループ会議を 7 月下旬にオーストラリアで開催する予定。
IEC/SC 86C/WG 2	米国・サンルイスオビスポ	2017 年 3 月 15 日～18 日	10 名 (5 ヶ国)	高橋 正雄 株式会社東芝	3 月 15 日 IEC 61757-4-3 光ファイバ電流センサに関する TC38 との調整について議論 3 月 16 日 IEC 61757-4-3 Fibre Optic Sensors – Part 4-3: Optical current sensors based on polarimetric method 元案となる OITDA 規格案 (和文) の WTO/TBT 協定に基づく Web 公開開始を報告 TC38 との調整を実施することを決定

					審議 CD 登録することを決議
IEC/SC 86C/WG 2	米国・サンルイス オビスポ	2017 年 3 月 15 日～18 日	10 名 （5 ヶ国）	村山 英晶 東京大学大学院工学系 研究科 准教授	3 月 15 日 IEC 61757-4-3 光ファイバ電流センサに関する TC38 との調整について議論 3 月 16 日 IEC 61757 Ed1: Fibre optic sensors – Generic specification 審議 CDV 登録することを決議 IEC 61757-4-3 Fibre Optic Sensors – Part 4-3: Optical current sensors based on polarimetric method 審議 CD 登録することを決議（ただし TC38 との調整のうえ）